

生体構造機能・病態解析学演習

[演習] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 小島 悟 skojima@hoku-iryo-u.ac.jp、桜庭 聡

【概要】

生体構造機能・病態解析学特講 で学んだ知識をもとに文献レビューや計測機器を用いた実験を行い、身体運動・動作解析研究の手法について理解を深める。また、これらの手法を身につけることで、様々な障害による異常運動・動作や、加齢に伴う身体運動・動作の変化に関する諸課題を運動学的視点から追究できるように学修していく。

【学修目標】

リハビリテーション科学領域において必要とされる身体運動・動作解析手法を身につけ、課題解決に応じた適切な手法の選択、実施、結果の解釈をすることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～5	文献調査	リハビリテーション科学領域における身体運動・動作解析関連の文献レビューやディスカッションを行い、課題の設定と実験計画の立案を行う。	小島 悟 桜庭 聡
6～12	機器を用いた身体運動・動作解析の実践	立案された実験計画に基づいて対象となる運動・動作課題を適切な機器を用いて計測および解析する。	小島 悟 桜庭 聡
12～15	結果のまとめと報告	得られた結果を解釈し、まとめて発表する。	小島 悟 桜庭 聡

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート100%

【教科書】

使用しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【学修の準備】

予め指定された文献を読んで理解しておくこと（80分）。

授業時に紹介された文献を読んで学習を深めること（80分）。

【実務経験】

小島 悟（理学療法士）、桜庭 聡（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

実務経験を活かし、リハビリテーション科学領域における科学的運動・動作解析手法について演習する。